

あいサポート♡
メッセージャーに聞く



角 喜美江 さん

社会福祉法人 遊歩 吾赤紅施設長

障がいのある人も 参加する運動に拡大を

あいサポートメッセージャーになっ
たきっかけを教えてください。

障がいのある人たちが外の世界に出ると対人関係やいろいろな場面で生活しづらい様子を見てきて、地域の人たちに障がいについて知ってもらう必要を感じてきました。そこで、弁当の配達や出張紙すき教室など外に出て地域と触れ合える作業にも取り組み、学校を訪問して障がいに対する人権問題も考えてきました。あいサポート運動の「障がいを知る」「少しのお手伝い」という趣旨が私たちの活動と一致していたので参加しました。今は、人に声を掛けたり声を掛けられることが警戒される世の中なので「バッジによって障がいのある人と手助けしたい両者を取り持てたらいいな」と思いメッセージャーになりました。

日頃、あいサポート運動、あいサポーターについてどのように感じていますか。

私は、地域で障がいのことを知ってもらうためにも障がいのある人たちが運動の中心になるべきだと思っています。もちろん、知的障がいの場合はそばに見守り者がいて一緒に活動することになりますが、障がいのある人が、あいサポート運動を支えていく戦力になればと思っています。講演会では、中学生や高校生の皆さんが熱心に耳を傾けてくれ、行動にうつしてくれるのがとてもうれしいです。社会人になる前の生徒、学生の人たちにこの運動をしっかりと伝えていきたいと思っています。

活動の中で苦労したことはありますか。

あいサポートバッジをつけている人がまだ少ないですね。福祉関係者には浸透していても一般にはほとんど浸透していない状況だと思っています。もっとバッジの存在感が示せるようになるといいと思います。

ただ、押し付けや強制にならないようにぼちぼちと広めていく、共感してもらうことが大切だと思います。

あいサポートメッセージャーとして大切にしていること、伝えたいことは何ですか。

障がいにもいろいろな種類があるので、まずは皆さんに知ってほしいと思います。そして障がいのある人もこの運動と一緒に参加し、変わっていくことが大事だと思います。私は講演会その場でバッジを渡しません。ゆっくり考えてやってみようと思った人に届けています。あいサポート運動について考える、やってみようか考える、その時間や過程が大切だと思っています。焦らずゆっくりでいいので、行動できる本当の力を持ったサポーターを増やしていきたいと思っています。

今後の展望

もっとあいサポートのバッジを付けた人が増えていき、究極の目標はあいサポートのバッジやあいサポート運動がいらなくなって、自然に誰もが助け合い、障がいのある人も社会、地域の中に溶け込んでいるそんな姿がこのサポート運動の先にあれば良いと思いますし、そうあるべきだと思います。



▲人権講演会で角さんの話聞き入る中学生